

平成9年度アメリカ研修旅行アンケート調査報告

聴覚部電子情報学科情報工学専攻
皆川 洋喜

要旨 平成9年度アメリカ研修旅行(1998.3.22-31)前後における学生の意識の変化, およびアメリカの聴覚障害者とのコミュニケーションの様子を調べるためにアンケート調査を行った。

キーワード アメリカ研修旅行, NTID, Gallaudet University

1. はじめに

著者は, 1998年3月22日から31日までの10日間, アメリカ研修旅行として聴覚部学生20名と共に同行した。その前後での学生の意識の変化, およびアメリカの聴覚障害者とのコミュニケーションの様子を調べるためにアンケート調査を行った。

旅行前の調査は, 出発当日の朝行った。回収率は20/20であった。質問項目は主に選択回答式とし, ここではその集計データを報告する。

旅行後の調査は, 旅行3ヶ月後の6月に行った。回収率は8/20であった。質問項目は主に記入回答式とし, ここでは紙面の関係上, その中での代表的な内容をいくつか報告する。

2. 旅行前アンケート

(選択項目は複数回答可、特に重要な項目には二重丸)

(1)参加動機は何ですか？

- ・アメリカの学生と交流したい …15(◎7)
- ・アメリカの大学の様子を知りたい …15(◎1)
- ・アメリカの文化を知りたい …18(◎5)
- ・新しい自分を発見したい …5
- ・技短について見つめ直したい …2
- ・日本の文化を見つめ直したい …2
- ・海外旅行がしたい …12
- ・みんなが行くから …0
- ・その他・ひとこと
 - ・アメリカの文化を見ること (◎)
 - ・個人旅行では分からない面をじっくり見てきたい
 - ・アメリカの風土, 家並, オブジェ, 雰囲気などを見たい。アメリカ人の考え方など詳しく知りたい。

・これからの海外旅行のための経験

(2)旅行中に不安なことは何ですか？

- ・アメリカの学生とのコミュニケーション …16(◎3)
- ・同行者との人間関係 …2
- ・食事 …3
- ・お金 …8
- ・病気 …7(◎1)
- ・事故 …10(◎2)
- ・盗難 …13(◎3)

(3)どんな事を知りたいですか？(自由回答)

- ・アメリカの生活・文化など …7
- ・アメリカの大学の様子など …6
- ・アメリカについて …5
- ・アメリカの聴覚障害者について …4
- ・アメリカの雰囲気 …2
- ・アメリカから見た日本 …1
- ・日本にはないこと …1
- ・アメリカで有名な所 …1
- ・海外はどんなところか …1
- ・リンカーンについて …1

(4)アメリカの学生とどんな話をしたいですか？(自由回答)

- ・日本とアメリカの比較 …6
- ・日本のこと …5
- ・アメリカのこと …4
- ・学生生活 …3
- ・大学のこと …3
- ・趣味 …2
- ・自分のこと …1
- ・聴覚障害のこと …1
- ・シムコム (JSL) を教えたい …1

- ・友人関係, ジョークなど …1
- ・とことん話したい …1
- ・政治以外の話なんでも …1
- (5)アメリカの学生とどうやってコミュニケーションをしようと思っていますか? (自由回答)
- ・ASL …20
- ・筆談 …11
- ・身振り …12
- ・JSL …4
- ・英和・和英辞典 …2
- ・感情 …1
- ・絵 …1
- (6)コミュニケーションをスムーズに行うために準備した「こと」、「もの」は何ですか?
- ・ASLを覚えた …16
- ・自己紹介カード(名刺)を作った …8
- ・和英・英和辞典 …12
- ・ASLの本、資料 …6
- ・手書き用のメモ帳 …11
- ・その他
 - ・ノート
 - ・少しの演技力!?
 - ・心がまえ
 - ・質疑応答できるようにした
- (7)話題作りのために準備した「こと」、「もの」は何ですか?
- ・NTIDについて調べた …3 (講義, インターネット, 勉強会)
- ・ギャローデット大について調べた …4 (講義, インターネット, 勉強会, ギャローデットの日に参加して)
- ・アメリカについて調べた …5
- ・自己紹介ができるようにした …8
- ・技短の紹介ができるようにした …1
- ・日本の紹介ができるようにした …1
- ・お土産を準備した …7
- ・ゲームを考えてきた …6
- ・その場で決める …1
- ・特に準備していない …4
- (8)目標を一言!
- ・アメリカの学生と交流して友達作りたい.
- ・満喫!!
- ・積極的に行動する!!自分をアピール!!オープン. オープン
- ・特になし
- ・日本人として戦い, 勝ちとるぞ!
- ・「デフ プレジデント ナウ」に必要なものをスパイすること.
- ・アメリカの学生とのすばらしい交流をめざす!
- ・アメリカの学生と楽しく交流し, 友達をたくさん作りたい.
- ・たくさんの人と話す
- ・友達作るぞー. 思い出話をたくさん持ってかえる. 30万円分の元をきっちりとるぞ.
- ・アメリカ人になる
- ・無トラブル
- ・何とかスムーズにコミュニケーションができますように
- ・アメリカの文化についてしっかりと学んできたい
- ・学生といろいろ話ができればいいと思っています.
- ・米国移住!
- ・アメリカの学生と友達になる!!
- ・無事に戻ってくること. アメリカの友人をたくさん作る.
- ・友達を作ること!!
- ・自分にとって糧になるような思い出をいっぱい作る.
- ・ASLや身振りや表情を通じて, 思い通りに話ができること. そして友達になる. そしてメールとかで文通をする.
- 3. 旅行後アンケート
- (1)旅行中の体調はどうでしたか?
- ・好調 …5
- ・普通 …1
- ・不調 …2
- (2)出発前の目標はどの程度達成できましたか?
- ・努力したので, 大体達成できた. など.
- (3)旅行中にもっとも印象に残ったことを3つあげてください.
- ・観光 …10
- ・NTIDの学生と交流できた. …4
- ・健聴の先生同士で手話を使うこと. …2
- ・筆談, ASLでショッピング …2
- ・食事が単調 …2
- ・アメリカの自由主義 …1
- ・日米の人々の過ごし方. …1
- (4)NTIDの学生とどんな話をしましたか?
- ・NTID, 技短, 自分, 家族, 生まれ故郷, 文化の違い, 旅行, 恋, 自動車免許, 障害者手帳, 男女差別のこと (日本, タイ, 中国, アメリカ…), 寄宿舎生活, 通貨, 戦争, 冗談, 講義, ASLの勉強

(5) NTID に対してどんな印象を持ちましたか？

- ・親しみが感じられた。短期大学のような大学同士だったからでしょうか。すぐに打ち明けられる。技短よりずっと大人っぽい雰囲気だった。
- ・学生の皆、そして先生方も話しやすい雰囲気でした。
- ・やっぱりアメリカ人だ。
- ・明るかった。前向きな姿勢が良かった。
- ・もう1回行きたい！
- ・ASL がカッコいい。上手く使えるようになりたい。健聴者同士でも手話を使っている。
- ・はじめはアメリカだけの大学と思っただけ、外国から来た学生も多いと気がついたこと。
- ・穏やかで感じ。

(6) ギャロデット大学の学生とどんな話をしましたか？

- ・ギャロデット大学、留学体験、奨学金、日本の手話、日本、日本人、盗難騒ぎの経験、アメリカの警察、旅行、ない

(7) ギャロデット大学に対してどんな印象を持ちましたか？

- ・一般大学、例えば筑波大学のような感じだった。NTID と比べて何か抵抗感があるような感じがした。(話しかけにくそうだった。)
- ・まとまりのなく、個人個人という感じで、我々を完全なよそ者扱いをしていたような感じを受けました。
- ・「ろう」であっても、堂々としている感じ？ たったの1日だけだったから、どんなものかも感じ取れなかった。もっと見学&交流をしたかった。
- ・ほとんど話せなかった。
- ・私も1年間、留学したいなあと思った。
- ・日本に例えると、筑波大学のように。
- ・みんな高い授業料を出しているわりには真面目でした。

(8) アメリカという国に対してどんな印象を持ちましたか？

- ・活気にあふれていた。外向的な人でないと暮らすことができない？と思わせるぐらい、自分をアピールしていたような感じだった。日本はおとなしいですね、本当に。
- ・自由なところは魅力を感じ、個性的で他人とのふれあい(知らない人でも声をかけたり)を自然にやっている所も良いと思いました。
- ・休日の過ごし方が健康的でいいなと思った。
- ・広い国だなと思った。日本と違って障害者に対して普通に接してくれたことが良かった。

・広すぎる。危ない。まずい。

- ・場所によって雰囲気がはっきり違う。流行とかにとられないで、個性をしっかりとってる人が多いと思った。
- ・スポーツ、好奇心に満ちた国。ドライブとかなど。
- ・“自由” “好き放題” って印象を持った。

(9) この旅行を通じて、自分自身何か変わったと思うことはありますか？

- ・自分の行動に責任を持つようになってきた。来年から、社会人になることもあってか、何か落ち着いた感じでした。
- ・ろう者としての自覚がついた様な、そして自分自身を見つめるためにも良い機会でした。
- ・ろうに対する見方がまた少しかわった。
- ・今はないが、帰った後のすぐは小さいことにこだわらずにやろうと思っていた。しかし、ずっと日本にいて日本に合わせてしまった。10日間では変わらないと思う。人種より、話しやすいならば誰でもよいと思えた。
- ・自分の気持ちに素直になること、意味のない規則にとられず、自分の責任でやっていくこと。もし、これは“ダメ” って言われたら、理由を聞く。
- ・海外旅行へ行きたいこと。アメリカの商品を買いたいこと。
- ・逆に自信をなくした面もあるが、自分しかできないことを見つけたいと思った。

(10) アメリカでの経験を生かし、自分自身でどんな行動を起こしましたか？

- ・いえ…何もなかった。
- ・自分は聴覚障害を持っている人間なのだから、健聴者ぶる所を止め、ありのままの自分を出すようにしました。
- ・学生と先生方とのコミュニケーションを考える会の運動の一部の参考にした。
- ・あまり起こさなかった。
- ・もっとしっかりしないといけない。
- ・手話を使わなかったり、講義が分からないとき、学生側から要望を言えばいいと思った。社会人になったら手話を使わないという考えをもつ先生もいるが、アメリカを見て、やっぱり、未来はもちろん、「今」を大切にしてほしいと思った。
- ・郷に入れば郷に従えという行動をした。
- ・もっと勉強せねば。海外の大学に通っている聾者の日本人にナメられる。

(11) 大学の案内や観光などの説明はよく分かりましたか？

(大学の案内について)

- ・大学内の案内は、NTID、ギャローデット両大学共学生のASLでの説明でも分かる所がいくつかありました。
- ・大杉先生など、ASLをよく知っている人に説明してもらいたかった。その方がスムーズに進めるからだ。
- ・ASLで音声なしの人が案内したとき、先生はまちがったまま通訳していた。
- ・日本の手話を使ってほしい。
- ・日本語の説明文も欲しい…。

(観光について)

- ・先生方には、通訳は大変だっただろうと感謝しています。など(2)

(12)アメリカの学生とのコミュニケーションは思うようにできましたか？

- ・時々通じない所があり、辞典で調べたりした事もありましたが、2日、3日となると、ほぼ通じ、スムーズに会話できるようになってきました。
- ・ASLはまだまだなので、完全に通じるわけがなかったのですが、かといって、英語も中途半端で思うようにいきませんでした。
- ・試行錯誤。NTIDの最後の交流会は何とかって感じで「楽しむ」ことができた。
- ・通じなかったこともあるが、一生懸命ASLを目一杯表現したら向こうが分かってくれた。親切に聞いてくれたのがうれしかった。
- ・何とか通じた。など(2)
- ・あまりできなかった。など(2)

(13)もっとこんな準備をしておけばよかったと思う「こと」、「もの」などありますか？

- ・英語力 …2
- ・ASLの力 …1
- ・和英辞典 …1
- ・ASLの本 …1
- ・メモ帳 …1
- ・名刺 …1
- ・海外旅行注意書 …1
- ・特になし。すべての経験がいい勉強になった。 …1

(14)帰国後、アメリカの学生と連絡を取りましたか？それは、どんな方法で行いましたか？

- ・はい …6
(電子メール(5)、文通(1)、(テレビ電話を使いたい(1)))
- ・いいえ …2

(なかなか時間が取れない。など.)

(15)これからも、アメリカの学生と交流を持ち続けたいですか？それはどんな方法で行いたいですか？

- ・はい …6
(電子メール(5)、文通(2)、会う(5:行きたい(3)来てほしい(3))、留学・交換留学(3)
- ・どちらでもいい …2

(16)海外研修旅行を行う時期について、どの学年の、何月頃が適当であると思いますか？

- ・2学年の3月頃(今回と同じ時期) …5
(こちらは春休みで準備しやすく、アメリカは授業中。2年間、技短の環境や日本の手話に慣れてから。3年目で技短を見直せる。など.)
- ・1学年の春休み …2
(色々経験し、それを基に行動を移すのに適していると思う。など)
- ・2学年の夏休み …1
(2学年の春休みだと向こうはすごく寒いから。快適な気候に行った方がいい.)

4. おわりに

今回のアンケート調査実施時期については、旅行前は出発日の朝記入し、その場で回収したため、回収率は100%であったが、旅行前の意識作りとしての意味を考えると、春休み前に行った方が良いと思われる。逆に、旅行後は直後ではなく3ヶ月後としたため、回収率は40%であったが、帰国後の生活に落ち着いた時期であり、研修旅行の意味を再認識するためのよい機会であったと考えられる。

研修旅行前後の学生の意識は、漠然としていたアメリカの大学の実態を、大変身近な存在として体験した上で、本学における、あるいは一個人としての行動に何らかの影響を与えている様子を見ることができる。

アメリカでの学生のコミュニケーション手段としては、ASLを短期間に習得し、完全でないながらも自由に使いこなしていた。NTID、ギャローデット両大学内の案内は主に学生がASLを使って行っており、技短教官による通訳に違和感を覚える学生(技短側、アメリカ側双方)もいた。このような場面での情報補償のありかたについても再検討すべきであろう。